**講師ご紹介**

原宿デンタルオフィス院長

日本臨床歯科学会東京支部 最高顧問
日本臨床歯科学会 理事長

山﨑 長郎 先生

<略歴>

1970 年　東京歯科大学 卒業

1974 年　原宿デンタルオフィス 開業

**<抄録>**

現代の歯科修復治療には、マテリアルの革新・開発により大きな変化がもたらされている。しかも、その発展と進歩の速度は、我々歯科医、歯科技工士の予想を遥に超えるものとなっている。また、患者サイドにおいても、様々な媒体・分野からの情報・知識により、従来の修復治療に、より更に高いレベルの審美性を望む声が高まって

いる。しかしそれは一方、ある種の危険性を孕んでいる。つまり審美性を追求するあまり、治療の本質を歪めかねない、と言う事である。審美修復治療と言えども、機能・構造力学・生物学等考察を合わせ持つ物でなければ真の修復治療とは言い難い事は自明の理である。それ故、これを踏まえた審美修復治療の臨床的基準を確立する必要があり、同時に、症例が複雑で困難になる程、修復治療の前、中、後、それぞれのステップにおける、各分野（矯正・歯周・インプラント等）との連携が肝要となる。より洗練された審美修復治療達成の鍵を握るのは、各専門医との綿密・詳細な診断治療計画の練り合わせなのである。今回は、Esthetic Classification を私なりに再達成し、症例の区分・分類法を新たに加え、併せて、最新のマテリアルをその使用方法と共に解説しようと思う。